

2025年は巳年！

谷戸沢処分場のヘビたち

2025年の干支にもなっているヘビ。「嫌い」「怖い」「気持ち悪い」と思っている人も多いのではないのでしょうか。今回はそんなヘビたちについてご紹介します。もしかしたら、ヘビに対する見え方や感じ方が少し変わるかもしれません。

ヘビってどんな生きもの？

ヘビは爬虫綱有隣目に分類されるトカゲなどと同じ爬虫類のなかまであり、日本全土には約30種が生息しています。そのうち、本土には8種が生息しており、谷戸沢処分場では8種全ての生息が確認されています。

谷戸沢処分場に生息するヘビたち

大きさ：成体（おとな）の通常の全長 食べ物：主に食べているもの



アオダイショウ

- 大きさ 100～170cm
- 食べ物 小型鳥類、ネズミ類、小型哺乳類など
- 特徴 日本固有種。平地から山地の人家やその周辺に多く、田畑、草地、河川敷でもよくみられる。木に登るのが得意。特別大きなものと2m近い個体もいる。カエル類なども食べ、幅広い食性をもつ。幼体の模様はマムシに似る。



シマヘビ

- 大きさ 80～150cm
- 食べ物 カエル類、爬虫類、ネズミ類など
- 特徴 日本固有種。平地から山地まで広くみられ、水田や小川などの水辺に多い。色彩変異が多く、縞模様がないものや「カラスヘビ」と呼ばれる全身が黒いものもいる。食性は幅広く、他種(時には同種)のヘビを食べることもある。俊敏に動く。



ヒバカリ

- 大きさ 40～60cm
- 食べ物 カエル類（オタマジャクシ）、ミミズ、小魚など
- 特徴 平地から山地の水田、湿地、小川など水辺で多くみられる。名前は「咬まれたらその日ばかりの命」という意味だが、実は無毒でおとなしいヘビ。泳ぎも得意で水中で獲物を捕らえるのもうまい。朝と夕方によく活動する。



ジムグリ

- 大きさ：70～100cm
- 食べ物：ネズミ類（特に幼獣）、モグラ類など
- 特徴：低地から山地の森林で主にみられる。盛夏にはあまり活動しない。地面に潜るのが得意で名前も「地潜り」の意味。地中生活への適応のため、上顎が下顎に被覆するつくりになっているほか、頭が小さく頸部のくびれもほとんどない。



タカチホヘビ

- 大きさ 30～60cm
- 食べ物 ミミズなど
- 特徴 低地から山地の森林に生息する。鱗がビーズ状で、鱗同士が完全に重なっていないため、高温や乾燥に弱いと考えられている。雨の日にみかけることも多い。鱗の表面には美しい虹色の光沢がある。つぶらな瞳をしている。夜行性。



シロマダラ

- 大きさ 30～70cm
- 食べ物 小型爬虫類など
- 特徴 平地から山地まで広く生息する。小型の爬虫類を主食とするため、餌となるヤモリ類やトカゲ類が生息する石垣などでみられることも多い。巷では「幻のヘビ」といわれることもあるが、夜行性で人目につきにくいだけで、地域にもよるが稀な種ではない。



毒

ヤマカガシ

- 大きさ 70～150cm
- 食べ物 カエル類など
- 特徴 日本固有種。平地から低山まで広く生息し、水田や湿地などの水辺でよくみられる。有毒で毒性は強く、死亡例もある。カエル類を好んで捕食し、他種があまり食べない毒のあるヒキガエルもよく食べる。色彩変異が非常に豊富で、素人が見た目で判断するのは危険。



毒

ニホンマムシ

- 大きさ 40～65cm
- 食べ物 カエル類、ネズミ類、小鳥等の小型の脊椎動物など
- 特徴 日本固有種。よく知られた毒蛇。平地から山地まで様々な環境に生息する。太短い体形をしている。日本で最も咬傷被害が多い。卵ではなく直接子どもを産む胎生。食性が極めて幅広く、ムカデなどの節足動物の捕食例もある。

多くのヘビが生息している環境
ご紹介したとおり、ヘビの生息環境や食べ物はその種によって様々であり、彼らが生きていくには多種多様な餌資源と環境が必要です。したがって、多くの種のヘビが確認されている場所は、それだけ豊かな環境であるといえます。ヘビたちの存在は、谷戸沢処分場に自然が再生している証ともいえます。

ヘビを見かけたら…
■ ヘビは自分から追いかけて襲ってくることはありません。不用意に近づかず、そっとしておいてあげましょう。
■ 毒のあるヘビもいます。同じ種でも見た目が違うものもいます。分からない人は不用意に触れないようにしましょう。